

信頼される安心を、社会へ。

**SECOM** セコム工業株式会社



2012年11月15日竣工 新本社工場

# セコム工業株式会社 環境レポート 2016



2016年11月15日竣工 新物流センター

## 緑の地球を子供達に残そう

## ■編集方針

本レポートは、セコム工業(株)の環境経営\*1をステークホルダー\*2の皆様にお伝えすることを目的に発行しています。活動内容についてご理解いただけるよう心がけてつくりました。

## ■報告対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日 一部の記事については2016年4月以降の活動を含みます。

## ■参考にしたガイドライン

「環境報告ガイドライン2012年度版」

## ■発行年月

2016年12月

## ■お問い合わせ先

セコム工業株式会社 ISO事務局

TEL : 0224-25-6111

○ もくじ	.. 1
○ 会社概要	.. 2
○ トップメッセージ、セコムグループにおけるセコム工業の役割	.. 3
○ セコムの理念	.. 4
○ セコム工業の環境保全活動	
・ 環境経営	.. 5
・ 2015年度 環境保全活動のまとめ	.. 6
2015年度 環境目的・目標	.. 7
是正処置及び予防処置の状況	.. 9
法令遵守(環境ガバナンス)	.. 9
資源の有効活用	..10
地球温暖化防止のために	..10
温室効果ガス排出量算定の取り組み(Scope1・2・3の把握)	..11
社会貢献活動	..11
・ 2016年度 環境保全活動	
2016年度 環境目的・目標のポイント	..13

\*1:環境経営 …… 企業と社会が持続可能な発展をしていくために、地球環境と調和した企業経営を行うことです。

\*2:ステークホルダー … 企業が経営活動を行っていくうえでの利害関係者のこと。具体的には、お客様、お取引先、社員、地域社会などが挙げられます。

## ◆ 会社概要

社名 セコム工業株式会社  
(英名:SECOM INDUSTRIES CO.,LTD.)

創立 1977年10月1日

資本金 4億9,900万円

役員 代表取締役社長 三浦 寿哉  
取締役 鈴木 三男  
取締役 進藤 健輔  
監査役 宮本 和久  
監査役 松本 憲一

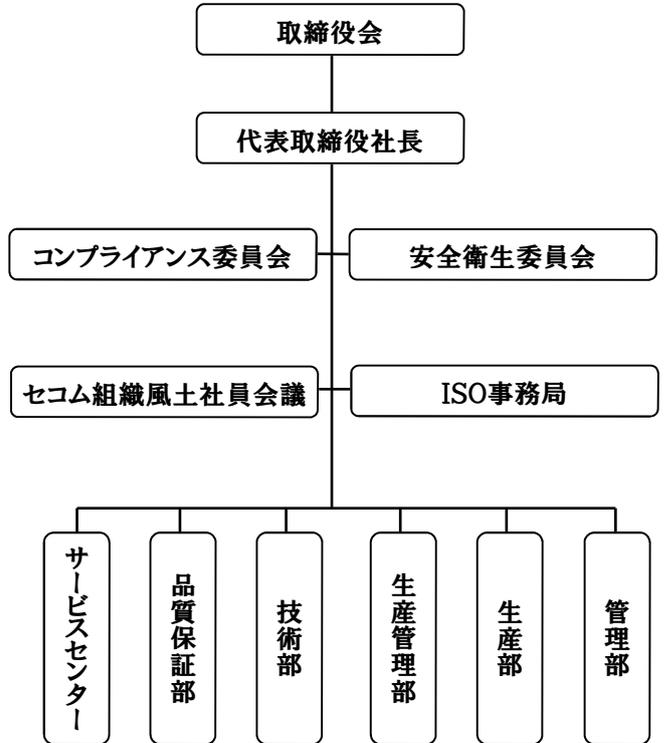
従業員数 301人(2016年4月1日現在)

主要製品 セキュリティ・防災関連機器、ハーブ

関連会社 セコムグループ各社

主要取引先 セコム(株) ほか

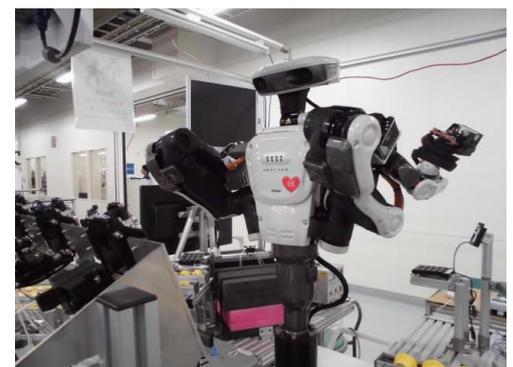
## ◆ 組織図



(2016年4月1日現在)

## ◆ 事業内容

- 開発設計  
セコム(株)開発センターと協力して、コストパフォーマンスの優れたセキュリティ機器の開発設計を行っています。
- 製造  
部品調達から製造、出荷まで、環境負荷の少ない「効率的生産」を目指し取り組んでいます。
- 物流  
セコムの物流拠点として、各種セキュリティ機器や物品・工事材料等を出荷しています。
- ハーブの生産(ハイプラント)・ ISOの登録活動範囲外です。  
水耕栽培の植物工場で生産されるセコムのフレッシュハーブは16種類。地元企業と協力し、コラボ商品の開発もを行っています。





信  
頼  
さ  
れ  
る  
安  
心  
を  
、  
社  
会  
へ  
。

## 〇トップメッセージ

セコムグループは、日本初の警備保障会社からスタートして、現在ではセキュリティ事業のほかに、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報通信、不動産の事業を展開しています。

これら7つの事業を結集し、「誰もが安心して暮らす、快適で便利な社会」を目指して、“ALL SECOM”で取り組んでいます。

セキュリティの分野では、お客様に提供するサービスのクオリティをより一層向上させるために、設計、製造、販売、設置工事、そして運用・保守まで、グループ内で自己完結的に行う一貫責任体制を構築しています。

その中で、セコム工業は1977年設立以降、セコムグループ製造部門の中核工場として、常にお客様の視点で考え、付加価値(差異化)のあるセキュリティ機器の設計・製造を行ってきました。

今後とも、自ら考え、行動し、よりお客様にご満足いただけるサービスを提供していきます。

代表取締役社長 三浦 寿哉

## セコムグループにおける役割

私たちセコム工業にとってセコムグループにおける役割とは、  
グループ内で購入する機器全体の

**Q**(品質)、**C**(コスト)、**D**(納期)及び**E**(環境)をコントロールすること

品質の良いものを適正価格でタイムリーにお客様に提供する。  
それにはまず私たち自身の**QCDE**のクオリティを  
いかに高めるかを、徹底的に追求することが必要です。

### その役割を達成するために次の行動を実践します

1. 高品質な機器の提供によりお客様満足度の向上を図る。
2. 環境に十分配慮した経営活動によるお客様へのアピールを行う。
3. セコムグループのリーディング工場として、セコムの根幹となるシステムの製造技術力を蓄積する。
4. 常にコストダウンを実践し、適正価格の機器を提供する。



### 「セコム工業」が担う セコムの製造部門

セキュリティ事業の円滑な運営に必要であるシステム構成機器を、迅速なスピードと最適なコストを持って提供する。次世代の核となるセキュリティ戦略技術で、高品質な機器を自社生産し、継続的な製造を可能にする。

SECOM

## セコムの理念

セコムには、社員が常に生き生きとし、組織の力を十分に発揮できるようにするために、創業以来脈々と受け継がれている理念や考え方があります。

代表的なものは、進歩に対する意欲を持ち、現状を打破することで独創的なシステムやサービスを創出する「現状打破の精神」、セコムにとってではなく社会にとって正しいか、公正であるかを判断基準にする「正しさの追求」で、これらの理念の浸透が、セコムの成長・発展の大きな原動力となっています。

また、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様からの信頼をいただくために、セコムでは法ならびに法を精神を遵守し、法令で一般に定めるものよりさらに厳しい、セコム社員としての心得および行動基準を定めています。

### ■「セコムの事業と運営の憲法」

セコムの基本理念である「社会に有益な事業を行う」を常に考えの根底にすえて、事業を行っていくために、セコムグループが実施すべき事業方針を定めています。

### ■「セコムの要諦」

1962年の創業以来培われたセコムの行動原理を基盤として、セコムグループの発展と社員の人的成長を達成するための共通の理念を定めています。

### ■「運営基本10カ条」

「セコムの事業と運営の憲法」を土台として、セコムが「社会システム産業」として発展するために、そして組織の風土が常に革新的であり、濁りのない清冽なものであり続けるために、あるべき考え方、あるべき姿を、運営の基本方針として定めています。

### ■「セコムグループ社員行動規範」

「セコムの事業と運営の憲法」「セコムの要諦」とともに、コンプライアンスの面からみて、いつの時代にも通用する普遍性を持つものとして制定されました。

「セコムグループ社員行動規範」には、セコムグループすべての社員のあるべき姿およびあらゆる業務の根底にあるコンプライアンスに関する考え方が規定されており、社会、お客様、お取引先などとの関係における心得や具体的に遵守すべき行動基準が明記されています。

### 「セコムの理念」(白本)で理念を共有

創業以来、セコムグループの基本的な考え方やあるべき姿、行動原理として培われてきた「セコムの理念」を、「セコムの事業と運営の憲法」「セコムの要諦」などとともにハンドブックとしてまとめて、全社員に配布しています。表紙が白いことから、「白本」の愛称で社員に親しまれています。

「セコムの理念」は、社内報「セコミティ」の巻頭でも毎回取り上げ、理念の共有と実践を徹底させています。



### 世界に広がる「セコムの理念」

海外でも日本と同じ高いレベルの「安全・安心」を提供するためには、マニュアルや規則どおりに業務を行えばよいのではなく、なぜそうするのかという基本的な考え方を理解して取り組むことが重要です。

そこで、「セコムの理念」や「セコムグループ社員行動規範」を各国の言語に翻訳して、組織の一人ひとりに浸透させています。



# セコム工業の環境保全活動

## ～環境経営～

### ■ 環境経営

当社は、セコムグループの先陣をきり、1999年に環境マネジメントシステム(以下、EMS)を導入し、PDCAサイクルを継続的に展開することで、省エネ活動、省資源活動、環境配慮設計を推進し、環境経営を深化させています。

## 環境方針

### 【基本理念】

セコム工業は製品の設計・製造など全ての事業活動が、地球環境問題と深い関わり合いがあることを認識し、環境との調和を経営の最重点課題の一つとして捉え、環境管理システム\*1を構築し、セコム工業の全社員が「緑の地球を子供達に残そう」のスローガンを合い言葉に、環境管理活動の推進、維持向上、改善を継続的に行うため、下記の行動指針を遵守・実行する。

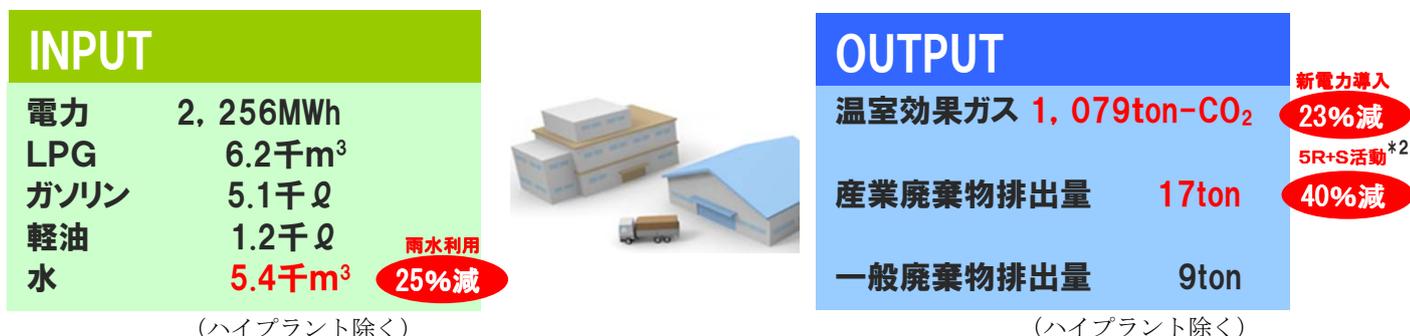
### 【環境スローガン】

『緑の地球を子供達に残そう』

### 【行動指針】

- 1.当社は、環境に与える影響を考慮した企業活動の実践と、製品の提供に努める。
- 2.継続的な環境改善活動を推進し、汚染の防止に努める。
- 3.環境に関係する法規や地域協定および合意したその他の要求事項を遵守する事はもとより、自主管理基準を設定し、環境保全と向上に努める。
- 4.当社の全事業活動について、環境に及ぼす影響を評価し、環境目的及び目標を設定し、改善活動を推進する。また環境目的、目標は定期的に見直しを行う。
- 5.環境方針を環境管理システムにて実行し、維持すると共に、継続的に向上させ、本方針をはじめ環境管理活動に必要な情報を全社員へ周知徹底する。
- 6.環境方針は、社外からの要求に対して開示する。

### ■ 環境負荷バランス (赤文字部分については、基準年度 2013年度対比で大幅に改善した項目です) 事業活動によるマテリアルバランスを示します。



\*1:環境管理システム …… 企業が自主的に環境保全に関する取り組んでいくことを「環境管理」といい、そのための体制・仕組みを「環境管理システム(環境マネジメントシステム)」といいます。

\*2:5R+S活動 …… 5R (Reduce、Reuse、Recycle、Refuse、Repair) + S (Sell 有価売却) による産業廃棄物の排出量削減活動です。Reduce(ゴミを減らす)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、Refuse(ゴミになるものを断る)、Repair(修理)

## ～2015年度 環境保全活動のまとめ～

### ■ 2015年度 環境目的・目標

2015年度は、「EMS&QMS 統合マネジメントシステム審査受審」「ISO14001新規格への移行準備」などエコ活動部分の施策については全項目達成することができました。

環境目的	2015年度目標
1. マネジメントシステムの有効性向上	① 品質&環境 統合MS審査 (2015年9月受審) ② ISO14001の改定版への移行準備 (2017年9月受審) ③ 内部環境監査員の更なる力量向上
2. 事業規模拡大への体制整備	① 中期3ヵ年計画「5R+S活動」の更なる推進 産廃排出量 13t 削減 (2012年度対比 原単位15%相当削減)
3. 環境パフォーマンスの更なる向上	省エネ、省資源施策の実施 ① 上水使用量の削減 (雨水使用量2014年度比5%増加) ② 本社契約電力の削減(840kW ⇒ 830kW) 環境意識の高揚 ③ SECOMの「エコピープル」の推進 ④ 生物多様性の取組み ⑤ 環境レポートの発行 各部署の更なる効率化に向けた取組みなど

### ■ 上記のほかにも各種取組みを実施しました。

- ・是正処置及び予防処置
- ・資源の有効活用
- ・温室効果ガス排出量算定
- ・法令遵守
- ・地球温暖化防止のために
- ・社会貢献活動 など



レベル4認定は、次回更新審査(2017年9月)まで有効

### ■ ステップアップ診断レベル4認定

**(JQA登録組織 約5000組織中 レベル4認定は※22組織のみ)**

当社は、従来から継続的にEMSの向上に取り組んでおり、2014年9月に取り組み内容について第三者機関(JQA)に評価いただきました。

その結果、組織の内部統制(内部監査)、企業の社会的責任(法遵守、情報開示・透明性)などで非常に高いレベルの評価をいただき、総合評価においても5段階中で「4」という高評価を受け、これまでの取り組みがEMS向上に大いに役立っていることが確認されました。

今後も更なる改善を図り、EMSの向上に努めていきます。

- 5段階評価 ・ 5:クラス最高(※認定組織なし)、4:継続的改善強調(※実質最高の評価)  
 3:安定・正式システムアプローチ、2:受動的アプローチ、1:基本システム構築  
 ※は 当社が認定を受けた2014年10月にJQAに確認した時点の内容です。

# セコム工業の環境保全活動

## ～ 2015年度 環境目的・目標 ～

### 1. マネジメントシステムの有効性向上

全て達成

- 2015年度  
エコ活動部分の施策は

# 『全て達成！』



#### ①品質 & 環境 統合MS審査の受審 (マネジメントレビューでの指示事項①)



外部審査 2015年度 外部審査の結果 (統合MS審査)

**統合ステージ I の認定**

統合を図る上で、基本的事項を満たしている。

<7つの評価項目> さらには 統合ステージを上げるためには 2 が重要!

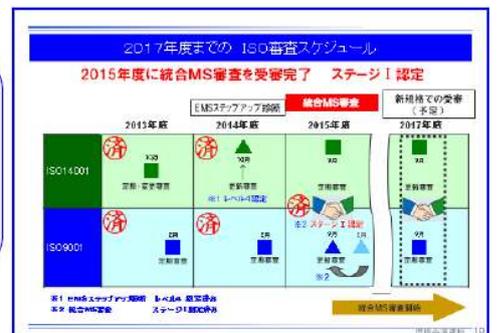
現状レベルについて

- 1 責任・権限 → ステージII
- 2 方針・目標管理 → ステージI
- 3 文書化した情報 → ステージII
- 4 プロセス・業務管理 → ステージI
- 5 内部監査 → ステージI
- 6 マネジメントレビュー → ステージI
- 7 是正処置などの改善活動 → ステージI

2014年度の  
**EMSステップ'アップ'診断**  
「レベル4認定」

↓

2015年度の  
**統合MS審査**  
「統合ステージ I 認定」



#### ②ISO14001の改定版への移行準備 (マネジメントレビューでの指示事項②)



ISO9001 & ISO14001の新規格(2015年版)への移行対応

<業務からの指示事項>

2014年度 環境マネジメントレビューにて JQAが推奨する移行審査までの理想的な計画に従い、ISO14001の新規格(2015年版)への移行準備を確実に実施すること。

<上掲の指示を受け、今年度下記12を実施>

- 1 説明会開催 “新規格(2015年版)の要点説明”の実施 (2015年11月開催 講師 JQA講師 ISO9001&ISO14001検査部長 講師一宮様)
- 2 情報収集 “新規格(2015年版)の移行対応セミナー”の受講 (2015年12月開催 講師 JQA講師 ISO9001&ISO14001検査部長 講師一宮様)

12ステップのスケジュール明確化

2017年9月に移行審査を受審

情報収集の実施

↓

移行に向けた  
**12ステップの**  
スケジュール明確化



#### ③内部環境監査員の更なる力量向上



“2015年度 内部環境監査員の更なるレベルアップ”  
⇒ 資格取得、監査経験、リフレッシュ教育等にてレベルアップ

監査員全員が“SECOMのエコビープル認定者”

氏名	資格取得	監査経験	リフレッシュ教育	業務経験	合計ポイント	力率	目標
佐久間 尚城	-	上級	実施	実施	+8	35	38
小宮 正男	合格	実施	実施	実施	+7	34	41
伊藤 文王	-	実施	実施	実施	+6	29	37
佐藤 幸	合格	-	実施	実施	+6	29	35
鈴木 重一朗	合格	-	実施	実施	+4	42	46

監査員全員が  
**SECOMの**  
エコビープル認定者

冷凍機械責任者

法改正に適切に対応

2015年4月1日施行  
フロン排出抑制法に関して  
十分な知見を有する者として認められる  
国家資格を取得

## 2. 事業規模拡大への体制整備

全て達成

### ① 中期3ヵ年計画「5R+S活動」の更なる推進



<2015年度>  
削減計画値 ▲13.0 t  
削減実績値 ▲13.1 t

達成率 100.4%  
削減金額 ▲135.8万円

## 3. 環境パフォーマンスの更なる向上

全て達成

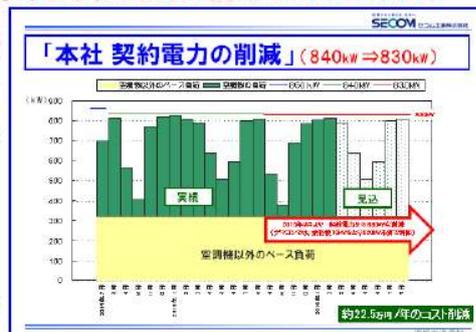
### ① 上水使用量の削減(雨水使用量2014年度比5%UP)



<2015年度>  
削減計画値 ▲1135 m<sup>3</sup>  
削減実績値 ▲1138 m<sup>3</sup>

達成率 100.2%  
削減金額 ▲39万円

### ② 本社契約電力の削減(840kW⇒830kW)



<2015年度>  
削減計画値 ▲1135 m<sup>3</sup>  
削減実績値 ▲1138 m<sup>3</sup>

達成率 100.2%  
削減金額 ▲39万円

### ③ SECOMの「エコ・プル」の推進



### ④ 生物多様性の取組み



### ⑤ 環境レポートの発行 (マネジメントレビューでの指示事項③)



# セコム工業の環境保全活動

## ～是正処置及び予防処置の状況～

### ■第3者審査（EMS&QMS 統合MS審査）

改善の機会について真摯に受止め、更なるレベルアップへ向けて改善を実施していきます。

第3者審査 統合MS審査 (JQA)	良い点	悪い点	指摘事項	改善の機会	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; color: white; font-weight: bold;">                     新規格移行時に 改善実施                 </div> <p>‘品質面と環境面が同時に管理’ できるような運用管理への移行</p>
			0件	※1件	
実施日 2015.9.29 ～ 10.2	※1件	※1件	0件	※1件	

※各件数は、EMS関連

### ■内部監査

マネジメントシステムの「弱み」の分析/把握等から、重点監査項目を定め、EMSの適合性、有効性向上に有効な内部監査を実施しています。

内部監査	良い点	悪い点	指摘事項	改善事項	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; color: white; font-weight: bold;">                     改善実施                 </div> <p>更なるレベルアップには、 目的、目標及び実施計画に 関する改善が必要</p>
			0件	2件	
実施日 2015.8 ～ 2016.3	3件	2件	0件	2件	



## ～法令遵守(環境ガバナンス)～

法的及びその他の要求事項確認規程に基づき、遵守評価を実施した結果、全ての項目を遵守していることを確認しています。

- 評価範囲 : 当社の事業活動、製品及びサービスが環境側面に、適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項
- 評価実施 : 2015年度内部監査の重点監査項目として実施
- 評価方法 : 「セコム工業関係法規制調査表」の要求事項に基づき評価
- 評価結果 : 適合

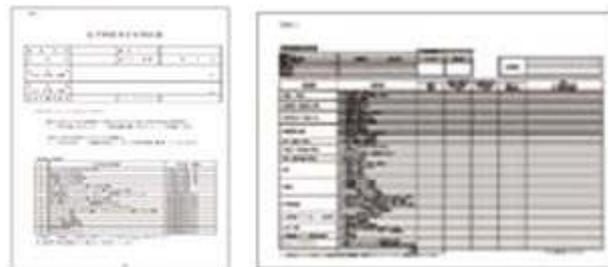
## ～資源の有効活用～

### ■「環境配慮設計」の推進

商品やシステムの開発・設計において、環境保全、資源の有効利用、長期使用など環境への影響を考慮した「環境配慮設計」を実践しています。

### 「グリーン設計ガイドライン」

サプライヤーに対して「グリーン設計ガイドライン」を発行し、製品の省エネルギー性能の向上や減量化・減容化などについての遵守を要請しています。特に、有害化学物質の管理については、セコム独自に使用禁止16物質を定め、「化学物質非含有保証書」を提出して頂いています。



### ■「グリーン購入」の推進

日常業務で使用する事務用品やコピー用紙などの消耗品においては、環境負荷の少ないグリーン商品の購入を継続して行っています。

### ■ 5R+S活動 の推進

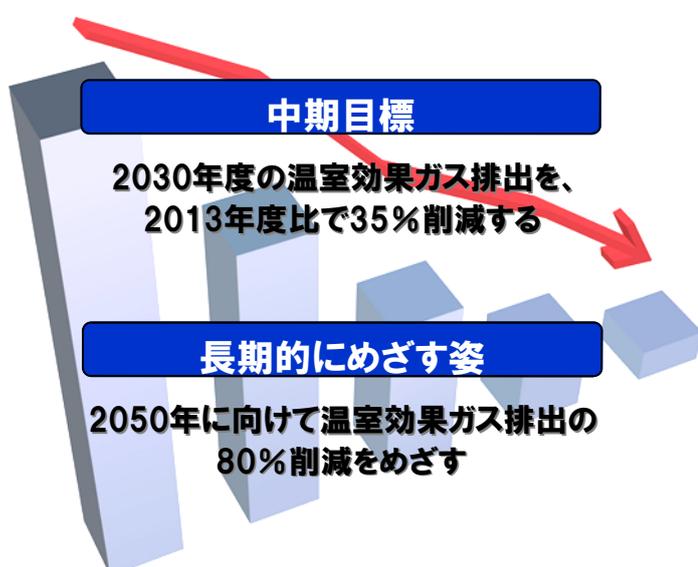
5R+S活動による産業廃棄物の排出量削減に取り組んでいきます。

## ～地球温暖化防止のために～

### ■ 温室効果ガス排出削減へ向けた新たな中長期目標の策定(2016年5月)

COP21での「パリ協定」の採択、並びに2016年5月の日本政府の「地球温暖化対策計画」を踏まえ、セコムでは世界的な視点からあるべき目標を設定する「アウトサイド・イン・アプローチ」の考え方に基づき、セキュリティ事業グループの新たな2030年度中期目標を策定。さらに2050年に向けて、セコムグループ全体で温室効果ガス排出の大幅削減をめざします。

当社としても、この方針に基づき「更なる効率化の推進」「再生可能エネルギー導入」などの実施により、中長期目標の達成へ向け取り組んでいきます。



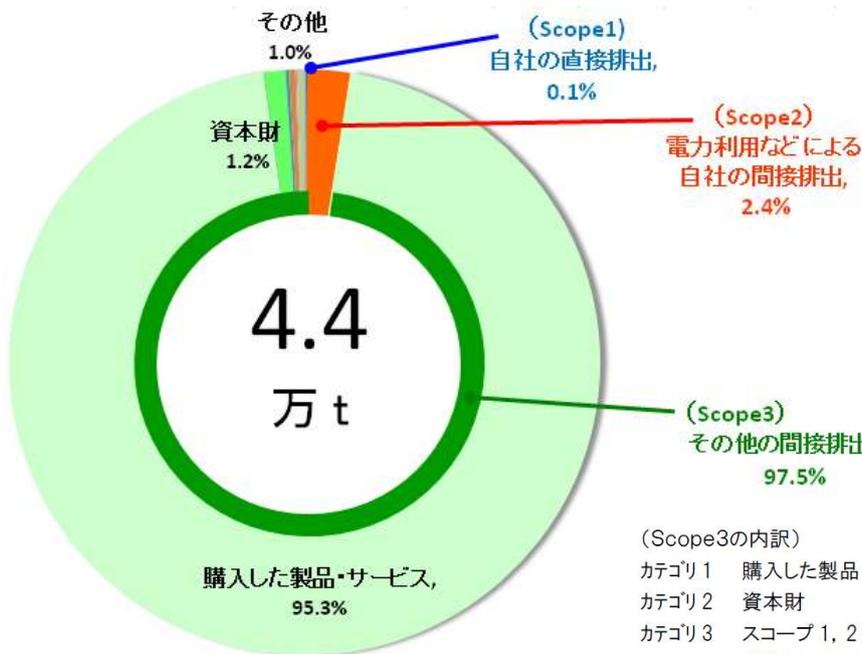
↑ 2030年度 中期目標達成へ向けた  
セコムグループ環境会議(2016年12月)

# セコム工業の環境保全活動

## ～温室効果ガス排出量算定の取り組み（Scope1・2・3の把握）～

当社のセキュリティ事業について、サプライチェーン全体から排出される温室効果ガス排出量の算定を行っています。事業活動に伴う直接排出であるScope1、間接排出であるScope2および社外の排出であるScope3を加えた2015年度の温室効果ガス総排出量は、約4.4万トンでした。

環境省が「金融機関等向けサプライチェーン排出量等の情報開示基盤整備事業委託業務」の一環として、平成26年度に実施したサプライチェーン温室効果ガス排出量の算定支援の内容に基づき算定しています。



2015年度

(Scope3の内訳)

カテゴリ1	購入した製品・サービス	約 41,481 トン	(95.3%)
カテゴリ2	資本財	約 512 トン	(1.2%)
カテゴリ3	スコープ1, 2に含まれない		
	燃料及びエネルギー関連活動	約 91 トン	} その他 (1.0%)
カテゴリ4	輸送、配送(上流)	約 149 トン	
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	約 1 トン	
カテゴリ6	出張	約 38 トン	
カテゴリ7	雇用者の通勤	約 184 トン	

※ カテゴリ8～カテゴリ15については当社非該当

## ～社会貢献活動～

### ■ エコキャップの回収・寄付

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう！という活動に賛同し、2015年度は約138千個をNPOエコキャップ推進協議会へ寄与しました。

### ■ 使用済み切手の回収・寄付

使用済み切手を集めて海外医療強力に役立てる！という活動に賛同し、2015年度も公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)へ寄与しました。

## ～社会貢献活動～

### ■ 環境出前教育

地域の環境ISO取得企業7社が協力し、近隣の小学校にて生徒を対象に環境出前教育を実施しました。

### 白石蔵王エコフォーラム (環境面での相互協力と地域社会貢献)



※ 講師は「SECOMのエコピープル登録者」



← ①2015年度は下記4校にて実施しました。

白石市立白石第一小学校様 (4年生)	55名
蔵王町立円田小学校様 (4、5年生)	24名
白石市立小原小学校様 (4、5、6年生)	15名
白石市立白石第二小学校様 (5年生)	103名

広報しろいし  
2016年1月号



↑ ②地元広報紙に、環境出前教育の記事が掲載されました。

### ■ 清掃活動

環境意識啓発・向上を目指して、会社周辺の清掃活動を実施するとともに、地域で開催される白石市沢端川清掃活動にも家族も含め積極的に参加しています。

### サンキューロード清掃活動 (本社・宮城第1物流センターの周辺)



### 白石市沢端川清掃活動 (地域で開催される清掃活動)



### 会社周辺の清掃活動 (宮城第2物流センター・ハイプラントの周辺)



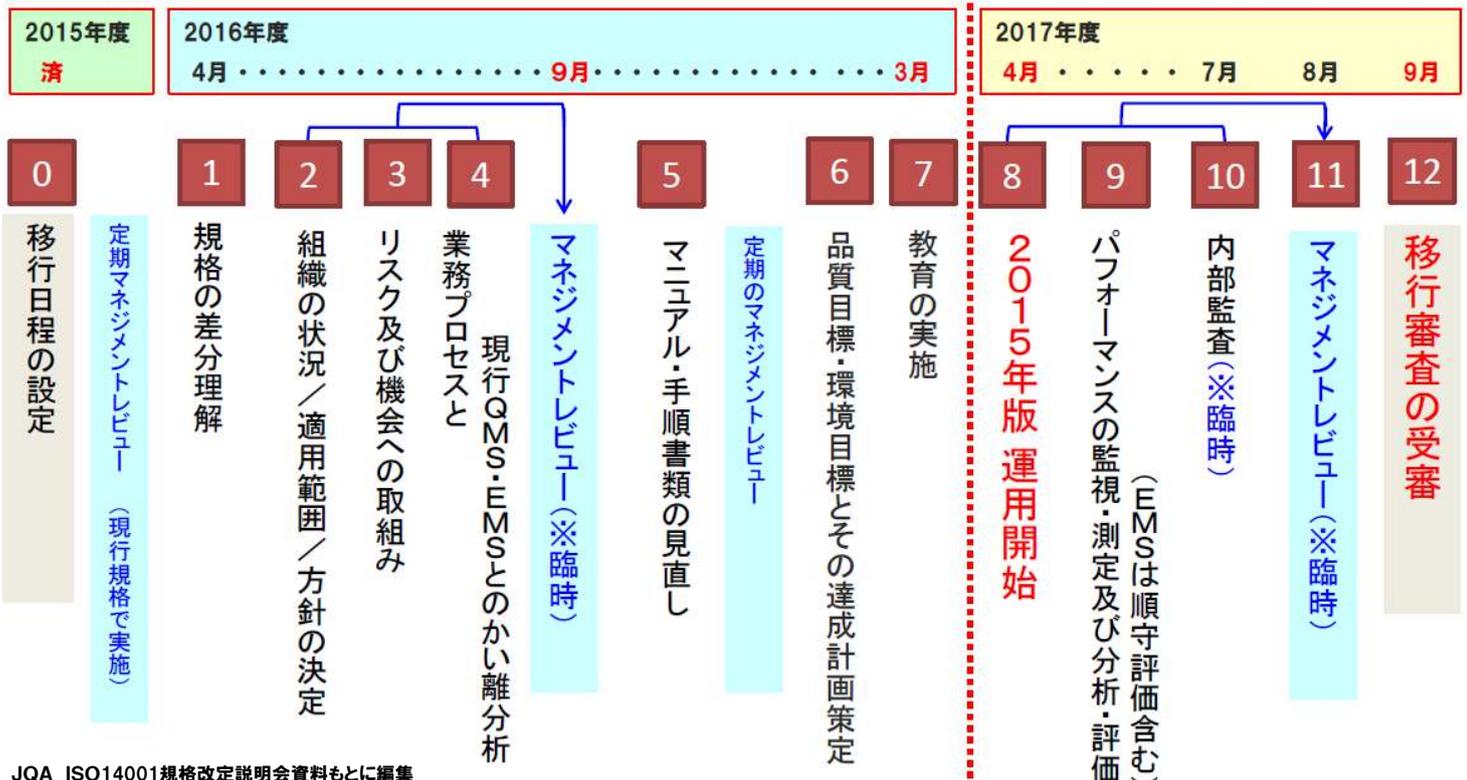
# セコム工業の環境保全活動

## ～ 2016年度 環境目的・目標のポイント ～

環境目的	2016年度目標
1. マネジメントシステムの有効性向上	① ISO14001の新規格への移行対応（2017年9月受審） ② ISO事務局新設によるシナジー効果の創出（品質&環境&労働安全衛生の事務局業務を担当） ③ 内部環境監査員の更なる力量向上
2. 新物流センター建設のフォローアップ	① PCB廃棄物の処分 ② 「5R+S活動」の実施による産廃排出量削減
3. 環境パフォーマンスの更なる向上	① 省エネ、省資源施策の実施 ① 各部署の本来業務を通じての環境負荷低減活動の実施 ② サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量の算定 ② EMS活動に伴うコストダウン ① 5R+S活動、雨水再利用、新電力使用に関するコストダウン ③ 環境意識の高揚 ① SECOMの「エコビープル」の推進 ② 生物多様性の取組み ③ 環境情報開示の推進 など

## 1. マネジメントシステムの有効性向上

### ① ISO14001の新規格への移行対応（2017年9月受審）



 **2017年9月 新規格移行+(ISO14001更新、ISO9001定期)+変更審査を受審**

EMSステップアップ診断

新規格 移行審査

統合プログラム審査 →

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
(EMS) ISO14001	10月 定期+変更審査 	10月 更新審査+ステップアップ ※1 レベル4認定 	9月 定期審査 	9月 定期審査 	9月 移行+更新+変更審査 
(QMS) ISO9001	2月 定期審査 	2月 定期審査 	9月 2月 更新審査 ※2 ステージ I 認定 	9月 定期審査 	9月 移行+定期+変更審査 

※1 EMSステップアップ診断 レベル4 認定済み

※2 統合プログラム審査 ステージ I 認定済み

## 2. 新物流センター建設のフォローアップ

### ① PCB廃棄物の処分

(2016年7月22日実施済)

### PCB特別措置法、廃棄物処理法に基づいた適正処分の実施

廃掃法施行令 第6条の6

廃棄物データシートWDS  
の業者への提出



廃掃法 第12条の2第5項

委託契約の締結  
「処分」と「収集運搬」



PCB特別措置法

行政立会いのもとで搬出



廃掃法 第12条の3

マニフェストの交付



廃掃法施行規則 第8条の28

マニフェストのB2、D、E票の  
期日内返却



当社保管のPCB廃棄物の処分完了に伴い、

**PCB特別措置法 第10条 処分期限2027年3月31日 ⇒ 遵守**

信頼される安心を、社会へ。

**SECOM** セコム工業株式会社

〒989-0295

宮城県白石市福岡深谷字南沖8-1

<http://www.secom-kogyo.co.jp/>